

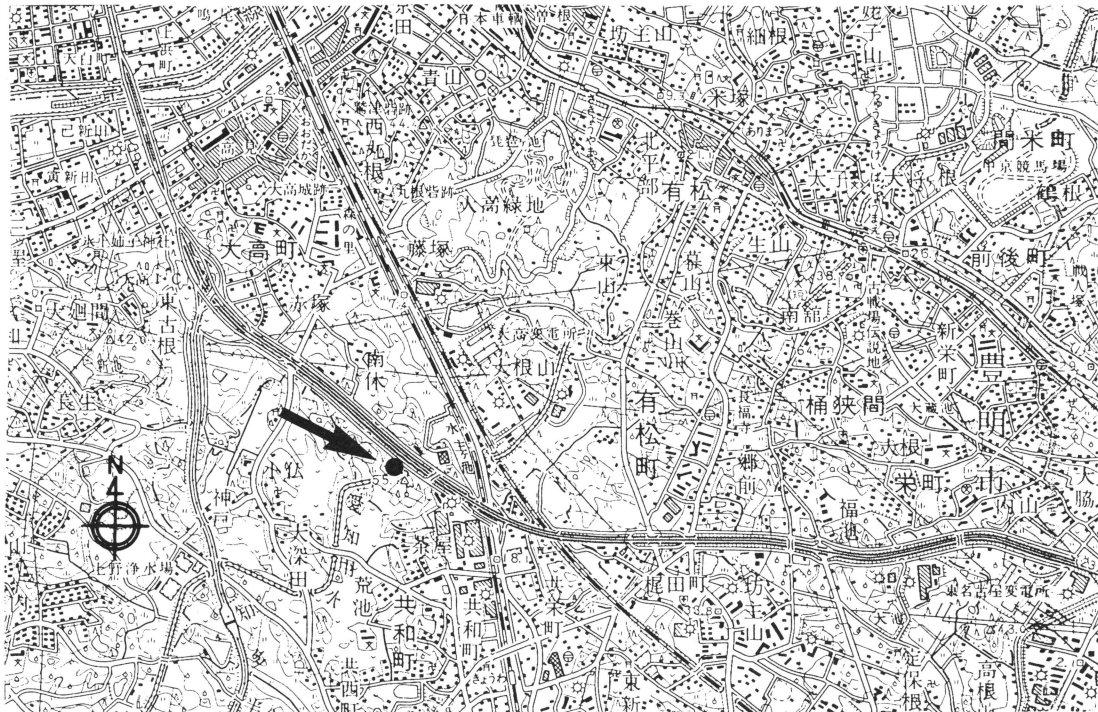
NA335号 古 窯 跡 群

調査の経緯 本遺跡は、名古屋市緑区大高町高根山地内に所在し、周辺の地形は起伏に富んでおり狭い谷を含む丘陵地である。調査は環状2号線建設工事の事前調査として、平成7年8～11月にかけて行った。調査区の位置する場所は名古屋市の南東端に位置し、周辺に所在する遺跡も前述の地形を利用した窯跡が圧倒的に多い。本遺跡も含めたこれらの古窯は、古代から中世にかけて日本有数の焼き物生産地であった「猿投山西南麓古窯跡群」に属し、そのうちでは鳴海地区（N）、有松支群（A）にあたる。本地点の発掘調査面積は、900㎡である。

調査の概要 検出した主な遺構は窯跡5基で、同時に灰原も確認できた。出土遺物は灰釉系陶器（山茶碗・皿）で、いずれも12世紀後半から13世紀前半のものと思われる。各窯跡は、傾斜を持たせたこの時期の灰釉系陶器生産窯4基の他、1基のみ床面が平坦で円筒形の窯体構造を呈する。円筒形の窯を除く4基のうち、3基はこの時期の椀を敷き詰めた床面下施設を有し、さらにこの中の1基はこの施設が上下2段に重なっていた。円筒形の窯は炭を生産した可能性もうかがえるが、その目的は不明である。

検出された遺構・遺物については、自然科学的分析も含めて現在整理検討中である。本遺跡の調査は、当該期のこの地域における窯業生産体制を検討するうえで一助となるであろう。

（松田 訓）



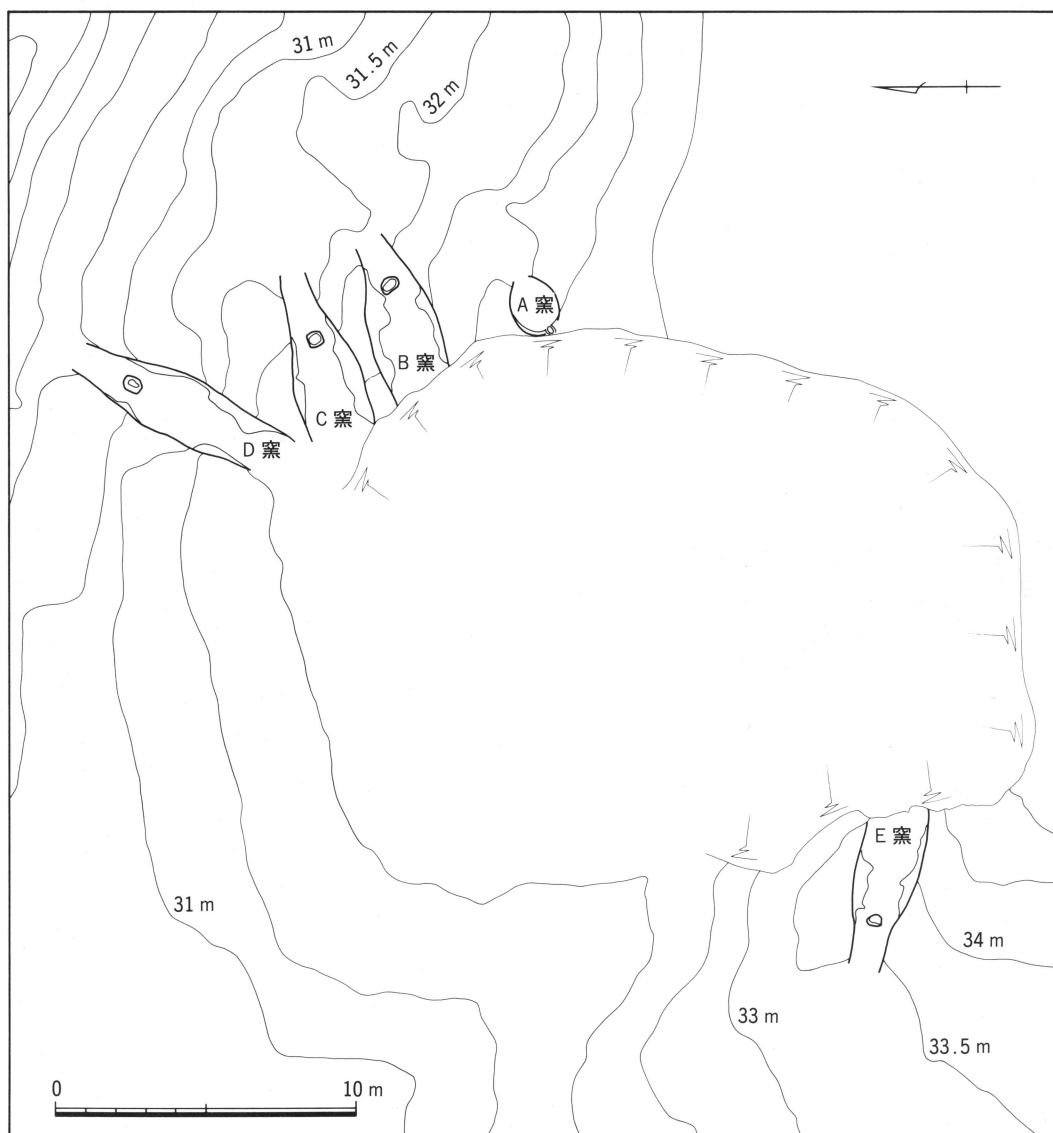
第1図 遺跡位置図（国土地理院1／5万）



第2図 B 窆



第3図 D 窆



第4図 遺構位置図